

## 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 終了報告

骨代謝学会の歴史で初めての沖縄での開催となった第 42 回日本骨代謝学会学術集会が、2024 年 6 月 29 日から 7 月 2 日に那覇文化芸術劇場「なは一と」において無事終了しました。便利なはずのモノレールがまさかの運休になったり、初日の学会ハイライト、Mone Zaidi 博士のオープニングレクチャーは参加者が予想を上回り急遽ホテルコレクティブからなは一とへと会場が変更となるなど、ハプニングもありましたが、670 名あまりの参加者にご来場をいただき大盛況となりました。今回、地中海の西の果てを超えて新世界を目指す標語にインスパイアされ、「Osteonetwork : Plus Ultra~オステオネットワーク、その先へ〜」というテーマを設定しました。オステオネットワークの意味は、骨と多臓器連関、骨髄内の細胞間相互作用という科学的意味合いに加えて、骨が繋ぐヒューマンネットワークをさらに新たな段階へとグレードアップすることも含んでいました。沖縄での開催によって、Think different すなわち、非日常空間に集うことで新たな着想を得て明日からの研究に生かすこと、フランクな環境で率直な討論や新たな共同研究の芽を育むことを目指しました。特別教育講演には、日本骨代謝学会を築きあげたレジェンドである須田立雄先生にご登壇いただき、活性型ビタミン D<sub>3</sub> や RANKL の発見と応用の歴史と展望を概説いただきました。14 のメインシンポジウムでは、基礎と臨床をまたぐセッションを含め、骨代謝領域のホットトピックを網羅しました。最先端の研究成果や最新技術が発表され、ハイレベルなサイエンスに触れることができたものと思います。また、OIST や琉球大学との共同セッションを組んだことで、生物多様性や海洋生物に富む沖縄ならではの分野横断的な研究に触れ、沖縄の世界レベルのトップサイエンティストと交流する機会を持てたことは大きな成果と感じました。新たな試みとして、分野を超えたゲストスピーカーをお招きした招待講演と教育講演を多数準備させていただきました。がん、食食機構、筋疾患、循環器など普段は聞くことができない話題を間野博行先生、長田重一先生、戸田達史先生、小室一成先生という最高の演者から伺うことで、骨代謝領域にも新たな風が吹くことを期待しております。英語セッションである IFMRS ジョイントシンポには ASBMR, ANZBMS から素晴らしい演者が派遣されました。ズームとなりましたが Josef Penninger 博士の講演は圧巻でした。このように、セッションが充実しすぎたおかげで、聞きたい内容が重複したり、海へ行く時間が見つけれなかったのが残念だったという声も聞きました。プログラムの充実は、プログラム委員会に加えて、シニア、ジュニア、企業から多数の委員にご参加いただいてみなさんが聞きたい内容を選び抜いたお陰です。なんといっても、息抜きができたのは、全体懇親会だったかと思えます。免疫学者ロックバンド「ネガティブセレクション」のサプライズ演奏と田中栄先生、塚崎雅之先生、河本宏先生、司会の木村朱里さんの熱唱で満員の会場が湧き上がり大いに盛り上がりました。このように、第 42 回日本骨代謝学会学術集会は、これまでとは違う試みをたくさん取り入れ、高いサイエンスのレベルとダイバーシティを実現でき、新たな日本骨代謝学会学術集会のあり方を探る第一歩となったものと信じております。ご発表の先生方、

ご参加の皆様、そして学会をご支援いただいたスポンサー企業の皆様、このような形での開催をお許しいただいた理事の先生方、事務局長の岡本一男先生、副事務局長の塚崎雅之先生、日本骨代謝学会事務局の皆様、そして運営を担っていただいた OTS マネージメントの玉城社長、たましろ部長をはじめ多くのスタッフの皆様のおかげでこのような学術集会が開催できましたことを心より御礼申し上げます。